

令和元年（2019年）12月5日

「外食インカレ2019」で本学学生が金賞を受賞 ～人文社会科学部3年生チームが外食産業に「夜の給食」を提案～

【本件のポイント】

- 大学生・大学院生が提案するビジネスアイデアコンテスト「外食インカレ2019」（主催：一般社団法人日本フードサービス協会、日本フードサービス学会）で人文社会科学部3年生の加藤陽理・伊藤怜奈・熊谷穰チームが金賞を受賞。
- 全128チームの中から2度の書類審査を通過した6チームによる最終プレゼンが11月30日に行われた。
- 外食産業が学童保育を導入して夜の給食を提供することで、子供の孤食を減らしつつ、企業側の収入確保や外食産業のイメージ向上を図るビジネスモデルを提案。



【概要】

大学生・大学院生が提案するビジネスアイデアコンテスト「外食インカレ2019」で人文社会科学部3年生の加藤陽理(かとうあかり)・伊藤怜奈(いとうれいな)・熊谷穰(くまがいゆたか)チームが金賞(優勝)を受賞しました。このコンテストは、一般社団法人日本フードサービス協会、日本フードサービス学会が主催したもので、今回で2回目。今年、2020年東京オリンピック・パラリンピック以降を見据え、1. 外食産業の生産性の向上策、2. グローバルの視点から外食産業のマネジメントのあり方、の2つが課題テーマとして設定されました。応募のあった128チームの中から、2度の書類審査を通過した6チームにより、11月30日に東京の日本青年館で最終審査が行われ、「夜の給食～外食産業が子供の『こ食』を解決～」をテーマにプレゼンテーションを行い、外食産業における学童保育の導入に関わるビジネスモデルを提案した、本学人文社会科学部3年生チームがプレゼンバトルを勝ち抜き、金賞を手に入れました。

【提案内容】「夜の給食 外食産業が子供の『こ食』を解決」

本提案は、外食産業が学童保育を行い、夜の給食を提供するというものであり、社会的課題となっている「孤食（特に子供の孤食）」に着目した。特に小学生の学校以外の生活時間では学童保育に費やす時間が多い。そのため、学童保育で給食を提供することは、子供の孤食改善につながりやすい。しかしながら、従来の学童保育は『預かる時間が短い』『食事を提供できない』、子ども食堂は『開催頻度が少ない』『ボランティアのため継続性に不安』などの課題を持っている。そのため、外食企業が学童保育を兼ねるならば、これらの課題は解決される上、栄養バランスのとれた食事提供や食育に関わる教育も行うことが出来る。外食産業が学童保育市場を創造することで、中・長期的には外食産業の生産性の向上とともに、社会的課題に取り組むことによるイメージ向上を期待することが出来る。

【外食インカレ2019について】

名称：第2回大学生・大学院生が提案する第2回ビジネスアイデアコンテスト『外食インカレ2019』
主催：一般社団法人日本フードサービス協会、日本フードサービス学会
<https://gaisyoku-ic.com/>

お問い合わせ
山形大学広報室
TEL 023-628-4008 メール koho@jm.kj.yamagata-u.ac.jp